

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
5	1	4	土地改良費	258

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	土地改良
事業目的	土地改良施設の維持管理及び耐震対策を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 耕作に必要な不可欠な水を確保し、農地を洪水や湛水から守っていく。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○土地改良施設維持管理適正化事業負担金 <ul style="list-style-type: none"> ・事業に必要な一定額を愛知県土地改良事業団体連合会に5年間積立を行い、事業実施年度に補助金等を加算し交付される制度を活用し、大規模な維持工事を実施。 「亀割大池浚渫工事」「五条川スライドゲート自動化」 ○愛知県が行う防災ダム事業等への一部負担 <ul style="list-style-type: none"> ・耐震調査が行われたため池のうち対策必要と判定された池について、堤体等の耐震補強工事を実施。 大黒上池・雑木池・割洞第一池・落洞池・ニツ沢池・橋爪池・平谷第一池 ○土地改良施設改修工事 <ul style="list-style-type: none"> ・転倒堰、排水路等の改修工事を実施。 内久保地区、楽田勝部前地区、六郎洞地区、常福寺洞地区、今井地区 ・ため池の改修工事を実施。 清水寺洞池地区
事業の成果・効果	土地改良施設の改修及び耐震対策により、施設の機能確保と耐震化を図った。

II : 個別事業内訳

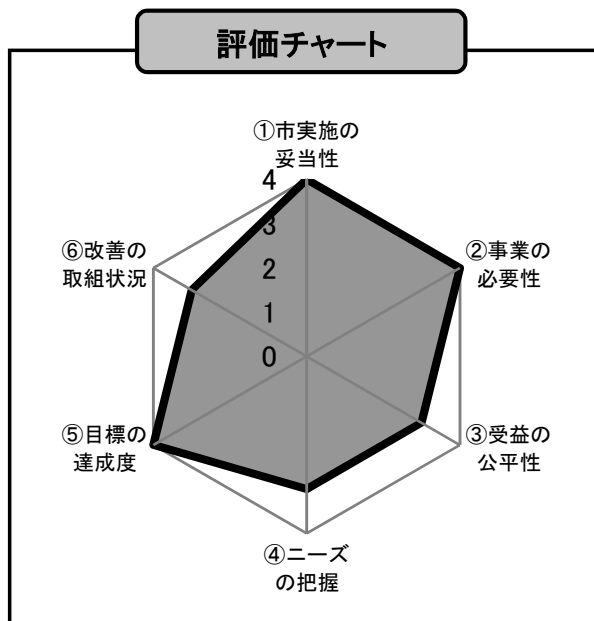
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
土地改良(排水)事務	921	0	921	100%	3	3	3
土地改良施設改良	130,286	72,980	57,306	44%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	131,207	72,980	58,227	44%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		69,245	131,207	159,221
財源内訳	国県支出金	24,480	63,280	69,538
	地方債	5,500	9,700	54,600
	その他	0	0	0
	一般財源	39,265	58,227	35,083
一般財源の割合		57%	44%	22%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	市が管理する法定外公共物である
②事業の必要性	4	土地改良施設を適正管理することにより、耕作地の水の確保はもとより、洪水抑制機能等の多面的効果が発揮され、市民の生活向上に寄与しており、事業実施の必要性が高い
③受益の公平性	3	用排水路やため池は、農業用のみならず地域排水路や洪水調整機能を有しており、その効果は広範囲に及ぶ
④ニーズの把握	3	受益者が申請人となっており、同意書をもって県事業として採択している
⑤目標の達成度	4	当初の予定どおり達成できた
⑥改善の取組状況	3	ため池の規模、被害想定の大きさ等により優先順位をつけて事業の平準化を行っている

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	補助金の交付率に併せて事業の調整を行った
令和2年度に見直しを実施している事項	防災重点ため池の再選定により、県事業において耐震診断を行い優先順位の再検討を行う
今後見直しを検討する事項	県と事業調整を行い、計画的な整備を推進していく

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
ほ場整備が完了して20年以上経過し、施設の老朽化や土砂の堆積が多くなり維持管理費が増加している。また、今後さらに老朽化が進むため、施設の長寿命化に向けて農業従事者との連携・協働が必要である。	地元要望に対し、事業の適正な選択が必要であるため、十分な現地調査と土木常設員のヒアリングなどにより公平な事業を実施する。また、県と連携し、防災ダム事業等を推進し、ため池の耐震性能向上を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	282

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	一般市道新設改良
事業目的	道路の新設、改良等の地元要望等に基づき身近な幹線道路及び生活道路の整備を行うことにより、生活環境の充実を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・地元要望等に沿った事業展開の実施 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○市道今井41号線道路整備 道路改良工事 L=146m W=5m ○成田富士入鹿線関連道路整備（市道塔野地93号線） 物件調査業務委託 用地購入 ○市道一の宮線道路整備 用地測量、土地鑑定評価委託、用地購入 道路測量・詳細設計 L=60m
事業の成果・効果	地元要望に基づき、市道今井41号線では道路改良工事を実施し、道路整備に必要な用地を市道塔野地93号線及び市道一の宮線で取得し、地域の生活環境の改善を進めた。

II : 個別事業内訳

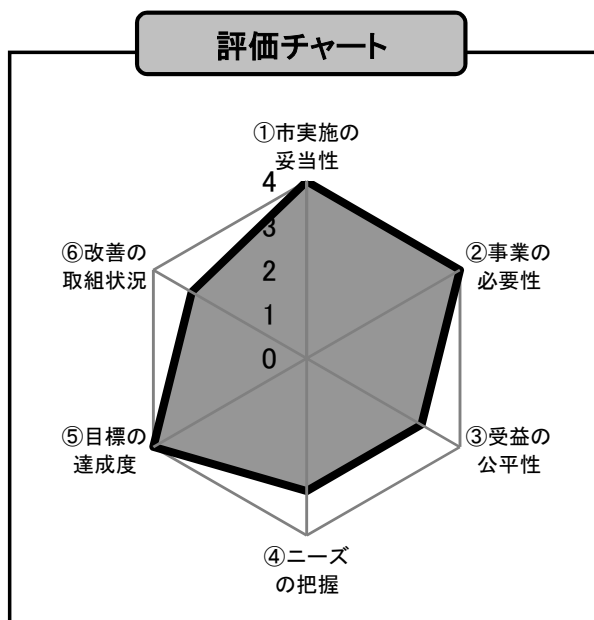
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
市道今井41号線道路整備	11,154	0	11,154	100%	3	3	3
成田富士入鹿線関連道路整備	2,678	0	2,678	100%	3	3	3
市道一の宮線道路整備	8,536	0	8,536	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	22,368	0	22,368	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		11,864	22,368	74,457
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	42,900
	その他	0	0	0
	一般財源	11,864	22,368	31,557
一般財源の割合		100%	100%	42%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地域の強い要望に基づき、生活環境の改善や交通安全の確保を行うための道路整備であり、市が実施する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時などの緊急車両等の通行の確保など、地域からの要望に応える事業として道路整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活道路として、地域住民の要望に基づく事業であるが、不特定多数の住民が利用するため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	土木常設員を通じた地域の要望に基づいて、事業を推進している。 また、市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性についてアンケートを実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	4	計画どおり事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	地域からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、地域と密接に連携して、コストの縮減に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	地元調整を密に図り、工事区間等事業効果の高い工事を実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	地域との調整を緊密に図り、引き続きより事業効果の高い路線の道路改良工事を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に整備を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地域からの要望が多様化しており、地域との調整に加え、地権者や隣接者の意識が変化している中で、交渉等の難易度が上がっている。	地元要望に基づき、道路改良事業を推進していくため、事業実施にあたり、事前の事業調整を行い、地権者等と円滑に調整を図るなどにより実施事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い事業の推進を図っていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	2	道路新設改良費	282

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	歩道整備
事業目的	村田機械南・東側の市道について、自動車交通と歩行者・自転車が錯綜しており、安全確保のための対策が求められている。橋中排水路整備（暗渠化）により、既設水路上空を歩行空間として利用することで歩行者の安全確保を行う。また、路線西側は扶桑町道であるため、一体的な整備効果が発現できるように同町と連携して整備を実施する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・市道高雄橋爪線 歩道整備事業 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・市道高雄橋爪線 歩道設置工事 L=224m W=4m
事業の成果・効果	橋中排水路整備（暗渠化）により、既設水路上空を歩行者空間として整備することで歩行者の安全確保を行う。また隣接工区の扶桑町と連携して実施することで歩道の連続性を図ることができた。

II : 個別事業内訳

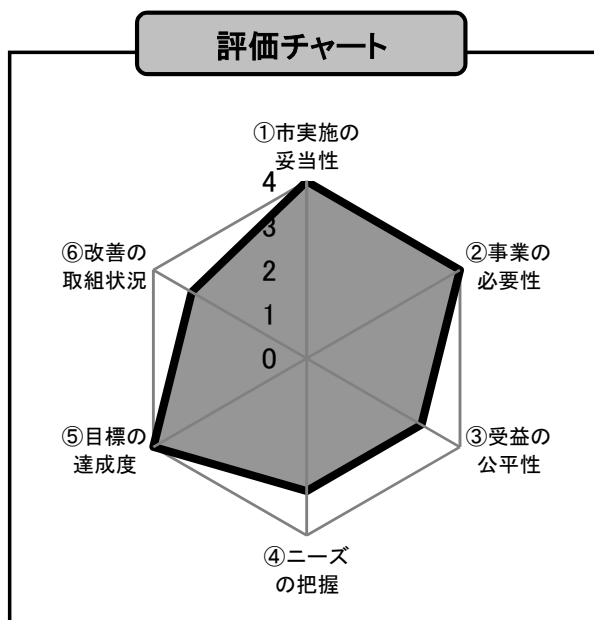
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
市道高雄橋爪線歩道整備	16,715	0	16,715	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	16,715	0	16,715	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		-	16,715	-
財源内訳	国県支出金	-	0	-
	地方債	-	0	-
	その他	-	0	-
	一般財源	-	16,715	-
一般財源の割合		-	100%	-



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	歩行者安全確保のための事業であり、市が実施する必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善及び安全性確保に加え地域からの要望に応える事業として歩道整備を推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活道路ではあるが、車両交通量も多く、歩行者の安全確保を図ることの公共性は高い。
④ニーズの把握	3	土木常設員を通じて地域の要望に基づいて、事業を推進している。また、市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性についてアンケートを実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	4	計画どおり事業を実施した。
⑥改善の取組状況	3	地域からの要望を精査し、市民の生活環境の改善に資する事業効果の高い路線を選定し、地域と密接に連携して、コストの縮減に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	地元調整を密に図り、工事区間等事業効果の高い工事を実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	地域との調整を緊密に図り、引き続きより事業効果の高い路線の道路改良工事を推進していく。
今後見直しを検討する事項	早期に事業調整を行い、より事業性や効果が高い路線の絞り込みを行い、計画的に整備を推進していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
地域からの要望が多様化しており、地域との調整に加え、地権者や隣接者の意識が変化している中で、交渉等の難易度が上がっている。	事業実施にあたり、事前の事業調整を行い、地権者等と円滑に調整を図るなどにより実施事業の絞り込みを行い、より事業効果の高い事業の推進を図っていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	3	橋梁維持費	282

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	橋梁維持
事業目的	平成30年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画に基づき、損傷度、重要度の観点から優先度が高いと判定された橋梁から補修工事を行う。
事業内容	<p>●事業の全体計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路安全性を確保する上で、計画的かつ予防的な対応に転換するため、橋梁を対象とした長寿命化計画を策定し、それに基づき点検及び長寿命化工事を実施する。 平成29年度～令和3年度（防災・安全交付金） <p>●主な事業内容</p> <p>○橋梁長寿命化</p> <ul style="list-style-type: none"> 橋梁長寿命化点検業務委託（橋梁点検 80橋） 橋梁長寿命化修繕設計委託（神ノ木高架橋） 橋梁長寿命化修繕工事（赤坂橋、観音橋、神ノ木高架橋） 橋梁長寿命化点検名鉄負担金
事業の成果・効果	平成25年度の道路法の改正に伴い、平成26年度から橋長2m以上の全ての橋梁328橋（横断歩道橋含む）を5年に1回近接目視による定期点検が義務付けられており、令和元年度は、赤坂橋、観音橋、神ノ木高架橋の修繕工事を実施した。

II : 個別事業内訳

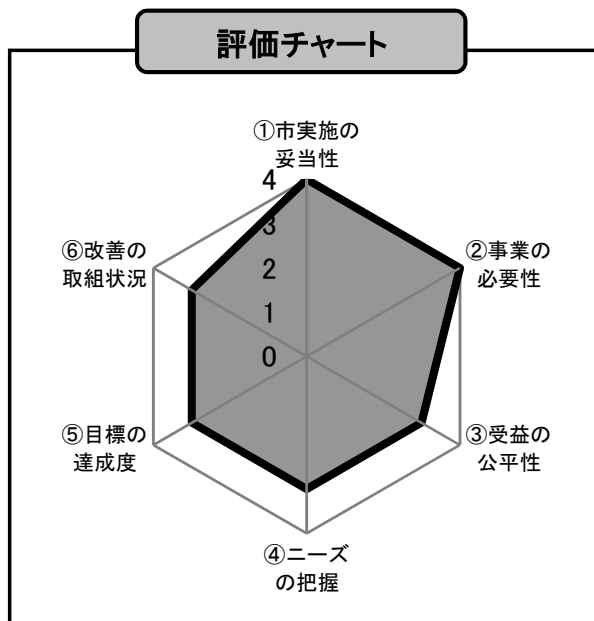
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
橋梁長寿命化	90,852	66,625	24,227	27%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	90,852	66,625	24,227	27%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		79,692	90,852	76,259
財源内訳	国県支出金	29,050	48,125	37,403
	地方債	23,800	18,500	14,500
	その他	0	0	0
	一般財源	26,842	24,227	24,356
一般財源の割合		34%	27%	32%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	道路法に基づき、橋長2m以上の市道橋梁について5年に1度近接目視による定期点検を行わなければならない。
②事業の必要性	4	道路法に基づき、橋梁を点検する事業であり、市民の安全・安心を守るため、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	3	橋梁について点検を行い、修繕を実施する事業であり、市民全般の安全・安心を守り、不特定多数の市民にサービスを提供する事業である。
④ニーズの把握	3	地域との調整を図りながら、橋梁長寿命化計画に基づき、修繕を進めている。
⑤目標の達成度	3	平成26年度から計画的に点検を進めており、適正に修繕を進めている。
⑥改善の取組状況	3	道路法に基づく定期点検を計画どおり進めており、損傷度、重要度などの視点から適正に修繕を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	道路法の改正に伴い、定期的な近接目視による点検を計画的に実施するとともに、予防の観点から橋梁の長寿命化工事を推進している。
令和2年度に見直しを実施している事項	橋梁長寿命化計画に基づき、適正に点検、長寿命化工事を推進していく。
今後見直しを検討する事項	市民の安全・安心を守るため、計画的かつ予防的視点で積極的に橋梁の長寿命化工事を推進する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
橋長2m以上の全ての橋梁について5年に1回の近接目視を実施していく必要があり、継続していかなければならない。損傷度の高い橋梁について、優先して修繕をしていかなければならない。	令和元年度からは橋梁点検が2巡目に入り、適正に修繕を進めていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	2	4	橋梁新設改良費	282

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	橋梁新設改良
事業目的	生活道路に使われている狭隘な市道橋を県が実施する河川改修事業に併せて安全で利便性の高い市道橋に改築を図る。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・新郷瀬川改修に伴う市道橋の橋梁新設改良事業の実施 平成23年度～令和2年度（社会資本整備総合交付金） ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○新郷瀬川改修関連橋梁整備 <ul style="list-style-type: none"> 用地測量 橋梁改築負担金 <ul style="list-style-type: none"> ・海道橋（市道前原14号線） W=6.5m 橋台工・橋脚工・左岸護岸工・左岸水路工等 ・合戦橋一号橋（市道羽黒東35号線） W=3.0m 上部工・左岸護岸工・取付道路工
事業の成果・効果	県が実施する新郷瀬川の改修工事に併せて市道橋の改修を行う事業であり、令和元年度は引き続き海道橋及び合戦橋一号橋の改修工事を実施した。

II : 個別事業内訳

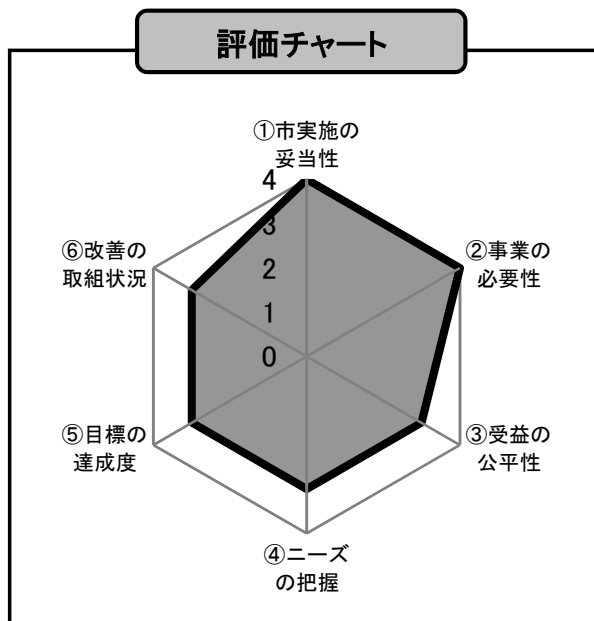
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
新郷瀬川改修関連橋梁整備	148,732	139,088	9,644	6%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	148,732	139,088	9,644	6%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		81,381	148,732	150,000
財源内訳	国県支出金	36,491	55,788	37,500
	地方債	40,200	83,300	101,200
	その他	0	0	0
	一般財源	4,690	9,644	11,300
一般財源の割合		6%	6%	8%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	生活道路に接続する市道橋を県の河川改修工事にあわせて、安全で利便性が高い市道橋に改修する事業であり、市が実施主体として実施しなければならない事業である。
②事業の必要性	4	生活道路として利用されている狭溢な市道橋を県が実施する河川改修工事にあわせて安全で利便性の高い市道橋に改築する事業であり、必要性が高い事業である。
③受益の公平性	3	生活道路としての市道橋改修であり、利用者は地域住民が多いものの不特定多数の市民が利用する公益性の高い事業である。
④ニーズの把握	3	県の河川改修工事にあわせて、市道橋の改修を実施しており、生活道路としての利便性の向上に資する事業であり、地域住民と調整を図り、事業推進をしている。
⑤目標の達成度	3	平成22年度から計画的に整備を進めており、若干の遅れが生じているが、概ね計画に沿って整備が進められている。
⑥改善の取組状況	3	県及び地元と連携して、計画に沿って、適正に事業を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	令和元年度は海道橋及び合戦橋一号橋の改築を計画的に実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	県と密に連携をしながら、県の河川改修事業にあわせて、市道橋の改築を効率的に実施していく。令和2年度は海道橋及び合戦橋一号橋が完了予定であり、全ての市道橋が完了する予定。
今後見直しを検討する事項	引き続き県と連携して、計画的かつ合理的に市道橋の改築を進めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
平成22年度から令和2年度までの事業計画で進めてきているが、当初スケジュールに対して若干の遅れが生じている。	海道橋及び合戦橋一号橋が完了予定であり引き続き計画的に進め、早期に富士橋の整備ができるよう、県と連携を図り、計画的に事業を推進していく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	1	河川総務費	284

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	河川総務
事業目的	河川関係団体等により構成されている協議会による治水、環境等の事業促進
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・河川総務事務 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○河川総務事務 <ul style="list-style-type: none"> ・河川関係団体等幹事会、総会及び負担金 ・境界確認測量委託
事業の成果・効果	各協議会の幹事会、総会に出席し、協議会として国、県に河川事業の陳情をした。

II : 個別事業内訳

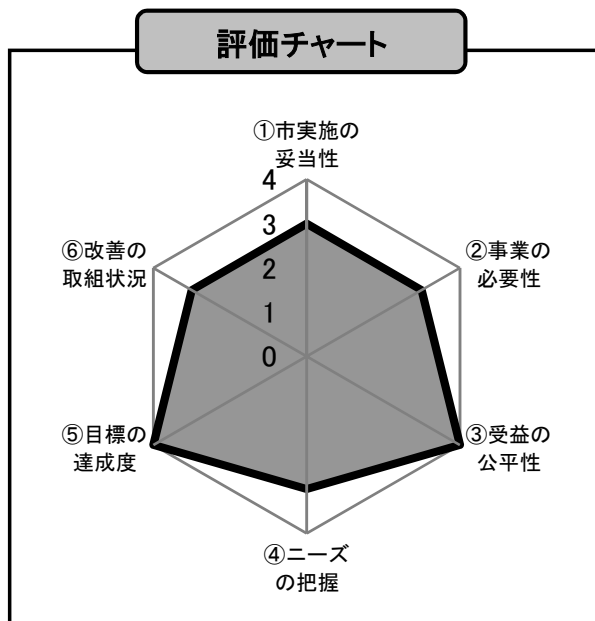
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
河川総務事務	271	0	271	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	271	0	271	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		291	271	291
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	291	271	291
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
②事業の必要性	3	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図るため、加盟団体と共に、国、県に事業の必要性を継続的に説いていく。
③受益の公平性	4	治水対策及び河川環境の整備、改善事業の促進と拡充を図られることにより安心安全のまちづくりに寄与する。
④ニーズの把握	3	道路冠水軽減等の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	加盟団体と連携し、国、県への要望を行った。
⑥改善の取組状況	3	見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	運営、事業等の精査、見直しを進めている。
令和2年度に見直しを実施している事項	見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。
今後見直しを検討する事項	見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
見直しを行うにあたっては関係市町村及び関係機関との調整が必要となる。	必要に応じ、関係市町村及び関係機関と連携や調整をしつつ、見直しを進めていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	3	2	河川改良維持費	284

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	河川改良維持
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され平成18年に一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 ゲリラ豪雨等による道路冠水や土砂災害などの被害の軽減を図る施策を実施していく。 ●主な事業内容 ○都市浸水被害対策 【内田西排水区】 名鉄犬山ホテル建て替えに伴い、ホテル敷地内にある排水路の改修をホテル建て替えと連携しながら実施。 ○排水対策事業 【細洞沢】(H30~) 愛知県が実施する砂防事業に関して、市管理の流末水路の整備を行う。 ・令和元年度 用地買収(市単独) 令和2年度 工事 【虎熊沢】 ・令和元年度 用地買収(公共補償及び市単独) 令和3年度以降 工事 ※道路及び水路付替箇所については、県から公共補償
事業の成果・効果	内田西排水区において、名鉄犬山ホテルの建て替えに伴う雨水排水路付け替えの調整を行い詳細設計を実施した。今後も引き続き名古屋鉄道㈱と調整しながら工事を実施する。細洞沢の砂防事業の下流水路整備のための用地取得を行った。

II : 個別事業内訳

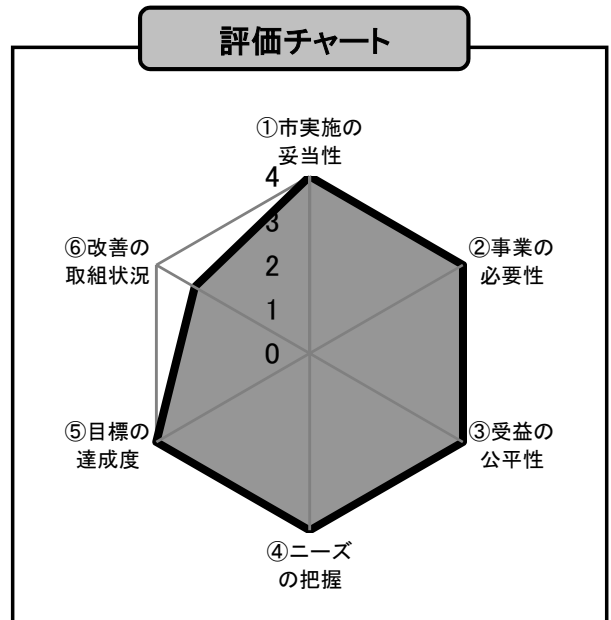
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
都市浸水被害対策	16,916	0	16,916	100%	3	3	3
排水対策事業	8,498	1,483	7,015	83%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	25,414	1,483	23,931	94%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		24,425	25,414	100,948
財源内訳	国県支出金	2,067	1,483	14,320
	地方債	0	0	66,800
	その他	0	0	0
	一般財源	22,358	23,931	19,828
一般財源の割合		92%	94%	20%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	排水区域内の浸水被害対策として市が実施する。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水被害対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減等の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	4	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	名鉄ホテル建て替えに伴う排水路付け替えについて名古屋鉄道㈱と調整を行った。細洞沢の下流水路用地の取得を行った。
令和2年度に見直しを実施している事項	引き続き名古屋鉄道㈱と調整を行いながら適切に工事を計画的に実施する。
今後見直しを検討する事項	地元要望等から事業効果や緊急性により優先順位を検討し新規路線を採択する。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
近年、短時間に多量の雨が降るゲリラ豪雨が頻発し、内水対策の重要性は高まっている。	引き続き名古屋鉄道㈱との調整を行う。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	2	都市建設総務費	290

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	都市建設管理
事業目的	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命を保護するため、急傾斜地の崩壊防止のために必要な措置を講じる。 道路、公園、公衆トイレなど公共施設の適正な環境管理を推進するため、アメニティ協会へ運営に対する補助金を交付する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・市内の急傾斜地崩壊危険区域において県が施工する急傾斜地崩壊対策事業の事業費の一部を受益者である市が負担する。(令和元年度：池野地区、富岡地区) ・公共施設の適正な環境管理を推進のため、アメニティ協会へ補助金を交付する。 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○都市建設総務事務 <ul style="list-style-type: none"> ・旅費、消耗品費、測量登記委託(公共嘱託) ・治水砂防関係団体等負担金 ○急傾斜地崩壊対策 <ul style="list-style-type: none"> ・急傾斜地崩壊対策事業負担金 ○アメニティ協会 <ul style="list-style-type: none"> ・アメニティ協会運営補助金、浄化槽保守委託料等
事業の成果・効果	片洞地区(富岡地内)及び御殿屋敷地区(池野地内)において、対策工事を実施した。 急傾斜地崩壊対策工事を実施することにより、土砂災害から市民を守ること、市民の安全・安心な生活が図られる事業であり、県事業(負担割合10%)として実施しており、事業効果は高い。

II : 個別事業内訳

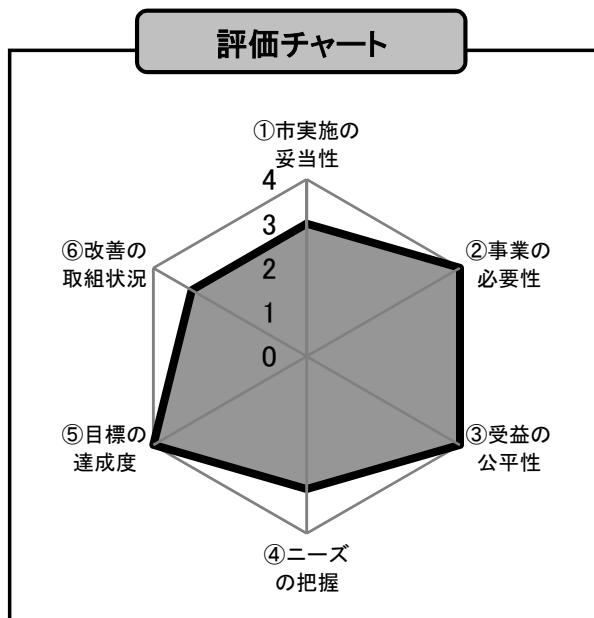
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
都市建設総務事務	3,244	0	3,244	100%	3	3	3
急傾斜地崩壊対策	4,882	0	4,882	100%	3	3	3
アメニティ協会	3,271	340	2,931	90%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	11,397	340	11,057	97%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		9,947	11,397	21,002
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	11,100
	その他	0	340	343
	一般財源	9,947	11,057	9,559
一般財源の割合		100%	97%	46%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	原則は地権者が対策を講ずべきであるが、市民の生命を守る視点から、県及び市が連携して事業を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る、非常に重要度の高い事業である。
③受益の公平性	4	急傾斜地崩壊対策工事によるハード対策とともに、防災マップなどを活用して土砂災害警戒区域を広く市民に周知することで、多くの市民の安全と安心を確保する事業である。
④ニーズの把握	3	土砂災害防止法に基づく危険箇所等について、地元からの要望等を踏まえつつ、対策工事を実施している。
⑤目標の達成度	4	地元及び県と調整を図った上で、県事業として計画的に事業を実施している。
⑥改善の取組状況	3	県及び地権者等関係者と調整を図り、県事業として、効率的かつ適正な手法でハード整備を推進するとともに、ホームページを活用し、警戒区域及び特別警戒区域などの啓発を進め、ハード・ソフト両面から効果的に事業を推進していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	県と緊密な連携を図り、片洞地区及び御殿屋敷での急傾斜地崩壊対策工事等土砂災害対策の積極的な推進に努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	市民の安心・安全を守るため県と連携を強化し、新規の対策工事箇所の採択に向け、積極的に事業を展開できるように努める。
今後見直しを検討する事項	県との連携を強化し、対策工事のさらなる推進を図るとともに、啓発事業についてもより積極的に取り組みを進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
急傾斜地の崩壊による災害から市民の生命と財産を守る重要事業であるが、対策工事の規模が大きくなり、対策が必要な箇所の整備に時間を要する。	県に対して、対策工事の実施に向けた要望を積極的に行うとともに、土砂災害に関する防災訓練、土砂災害応急復旧対策費補助金の周知などインターネット等を活用し、市民周知の促進を図るソフト対策をあわせて推進していく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	4	街路事業費	294

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	都市計画道路
事業目的	犬山市の市街地への通過交通の流入軽減対策及び市街地間の連絡のため、市街地内環状線や地域交通軸などの幹線道路を整備する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・富岡荒井線道路整備 平成19年度～令和4年度（市町村土木補助金） ・楽田桃花台線道路整備 平成30年度～ ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○未供用都市計画道路管理 <ul style="list-style-type: none"> ・維持管理（除草）、都市計画道路維持修繕工事 ○富岡荒井線道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・道路改良工事（番前地内）L=211m ・道路詳細設計業務委託 ・土地鑑定委託、用地購入、物件補償、測量登記 ○楽田桃花台線道路整備 <ul style="list-style-type: none"> ・土地鑑定委託、用地購入
事業の成果・効果	市街地への通過交通の流入軽減及び地域の交通軸となる幹線道路整備を推進するため、富岡荒井線の用地買収及び道路改良工事を実施した。楽田桃花台線については、用地買収を実施した。

II : 個別事業内訳

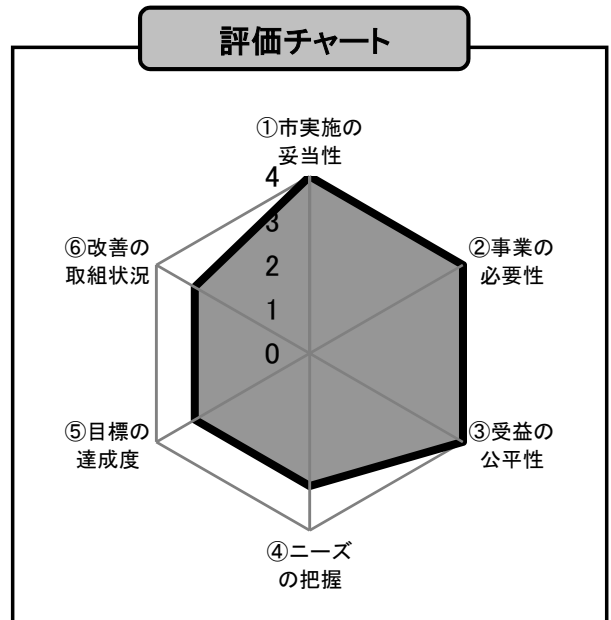
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
都市計画道路管理	2,431	356	2,075	85%	3	3	3
富岡荒井線道路整備	116,512	39,630	76,882	66%	3	3	3
楽田桃花台線道路整備	7,235	0	7,235	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	126,178	39,986	86,192	68%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	
		64,831	126,178	225,733
財源内訳	国県支出金	12,460	18,830	47,347
	地方債	33,600	20,800	153,800
	その他	326	356	231
	一般財源	18,445	86,192	24,355
一般財源の割合		28%	68%	11%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	都市計画道路整備事業として、市が主体となって実施し推進すべき事業である。
②事業の必要性	4	交通渋滞の緩和及び地域の発展に資する重要事業であり、早急に整備推進することが必要な事業である。
③受益の公平性	4	幹線道路の整備は不特定多数の市民が恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査において、市内の道路の安全性や快適性について調査を実施しており、道路整備の推進について、市民ニーズは高い。
⑤目標の達成度	3	改良工事については、計画的に推進している。富岡荒井線の用地取得については難航していた一部区域において進展があった。
⑥改善の取組状況	3	道路改良工事について、効率的に工事が進められるように努めており、用地についても課題点を精査し積極的に買収を進めている。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	難航していた地権者との交渉が進み用地取得を実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	用地買収を進め、早期に事業効果を高められるよう、整備促進を図る。
今後見直しを検討する事項	難航している用地買収について、地権者交渉を重ね、早期に用地取得、整備促進を図られるよう努める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
富岡荒井線の野田地内の区間については整備が進んでおらず、また一部幅員が狭く、車両のすれ違いが困難な状況であるため、早期に用地買収を行い、整備を進める必要がある。	野田地内の事業用地の地権者交渉を進展させるとともに、番前地内以南について早期に買収を進め、整備の推進を図る。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	5	土地区画整理費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	地区計画道路整備
事業目的	道路等の都市基盤施設が未整備である地区計画決定した地区について、この計画に基づき順次地区施設の整備を進め、民間開発を促すとともに低未利用地を活用し、良好な住宅地を形成する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間 平成24年度～ ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○橋爪・五郎丸地区計画道路整備 <ul style="list-style-type: none"> 測量調査（市道五郎丸50号線外、中心線測量外） 用地購入（橋爪・五郎丸地区セットバック分外） 道路改良工事（市道橋爪中線外）
事業の成果・効果	地区計画決定をした地区について、順次道路等の都市基盤整備を進め、良好な住宅地の形成を目指す事業であり、計画に基づき橋爪・五郎丸地区の道路工事(四郎丸地内)を進めた。

II : 個別事業内訳

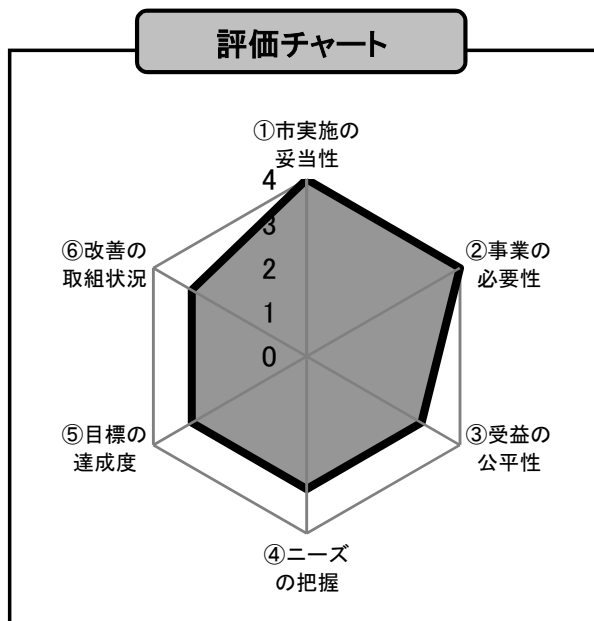
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
地区計画道路整備	9,335	0	9,335	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	9,335	0	9,335	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		2,944	9,335	30,166
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	17,300
	その他	0	0	0
	一般財源	2,944	9,335	12,866
一般財源の割合		100%	100%	43%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	地区計画決定に基づき、良好な住宅地の形成を進めるため、市が主体となって道路等の基盤整備を推進する必要がある。
②事業の必要性	4	都市基盤が未整備である地区計画決定をした地区の整備を進めることは、定住促進に資する重要な事業であり、推進する必要性は高い。
③受益の公平性	3	地区計画決定に基づき整備促進を図る事業であり、地域住民を対象としていることに加え、定住促進に資する事業として、多数の市民のサービス向上につながる事業である。
④ニーズの把握	3	市民意識調査においても、道路の安全性や快適性に対する市民ニーズは高く、市民からの問い合わせや要望等もあり、定住促進に資する事業として重要度の高い事業である。
⑤目標の達成度	3	市道橋爪中線の拡幅工事及び五郎丸50号線の用地測量を計画的に進めた。
⑥改善の取組状況	3	住宅建築の促進につながる事業効果が高い路線を選定して路線整備を進めているが、今後更なる整備促進をしていくため、より積極的に買収を進める方針の検討を進めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	事業効果が高い路線から順次整備促進を図るとともにセットバック箇所についての買収方針を検討した。
令和2年度に見直しを実施している事項	事業効果が高い路線について、引き続き整備促進を図るとともに、セットバック箇所について地権者協議を進め買収を進める。
今後見直しを検討する事項	早期の整備促進に向け、買収箇所の検討を進め、より効率的に事業用地の買収を行い整備促進につなげていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
用地買収及び整備を積極的に行っているが、全体の整備率としては低い水準にある。	定住促進に資する計画路線の整備を促進するため、効率的に買収を進める手法等を検討し、より積極的に用地買収を進める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	6	公園事業費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	公園整備
事業目的	公園を整備することにより、地域住民等の憩いの場やレクリエーション活動の場として提供し、良好なコミュニティを形成することができる。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・岩田公園用地（塔野地字岩田地内）A=8,304㎡ 施設管理業務委託 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○岩田公園整備 維持管理（除草）
事業の成果・効果	地域の憩いの場となる公園用地について適正に管理を行った。

II : 個別事業内訳

(単位：千円)

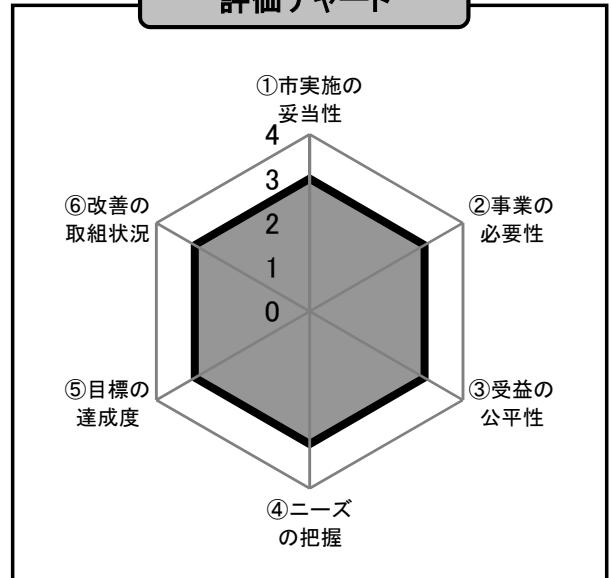
(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
岩田公園整備	344	344	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	344	344	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		262	344	330
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	262	344	330
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%

評価チャート



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	多くの市民の憩いの場に活用する公園施設の整備は市が主体として進める必要がある事業である。
②事業の必要性	3	市民の憩いの場としての公園施設の整備については、市民のニーズも高く、引き続き推進すべき事業である。
③受益の公平性	3	地域住民の憩いの場であるとともに、不特定多数の市民が活用する施設である。
④ニーズの把握	3	不特定多数の市民等が活用する施設であり、地元要望等市民ニーズを把握しながら進めている事業である。
⑤目標の達成度	3	公園用地について適切に維持管理を行った。
⑥改善の取組状況	3	公園用地について適切に維持管理を行った。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	適切な維持管理に努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	引き続き適切な維持管理を行う。
今後見直しを検討する事項	公園整備について、地元との意見交換。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
岩田公園の整備方針について、地元・関係機関等と協議を進め、方向性を定めていく必要がある。	地元・関係機関等の意見を聴取し、岩田公園整備の今後の方針について検討を進めていく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	7	公園管理費	296

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	桜樹木管理
事業目的	桜並木の適正な維持管理を行い、桜を活かした快適な空間を保全・創造する。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・道路及び河川敷の桜並木の適正な維持管理 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○沿道（堤防）桜並木管理 <ul style="list-style-type: none"> ・桜並木の支障枝及び枯枝の剪定、危険木の伐採、消毒等実施
事業の成果・効果	市内の桜並木約2,800本について、桜樹木診断の結果に基づき、適正な剪定・管理を行い、桜並木を保全することで、観光資源や潤いある歩行者空間に資する景観を保全するとともに、老朽化したり、道路交通上支障となる桜については、剪定等を行い、安全の確保に努めている。

II : 個別事業内訳

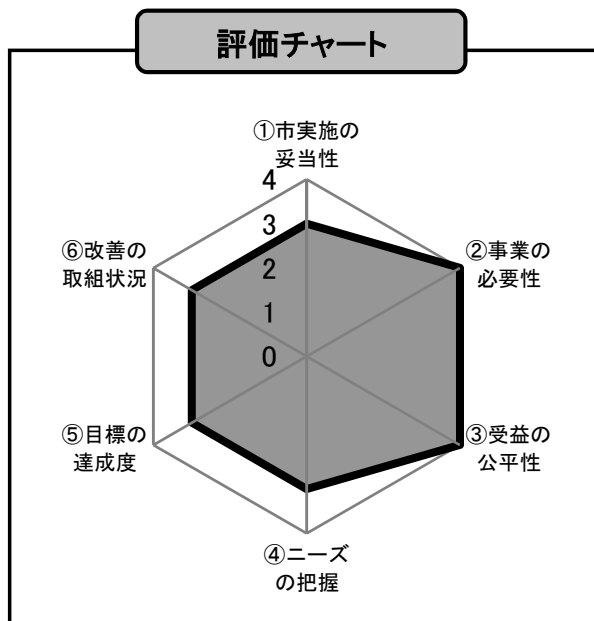
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
沿道（堤防）桜並木管理	19,788	0	19,788	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	19,788	0	19,788	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		16,516	19,788	24,777
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	17,642
	一般財源	16,516	19,788	7,135
一般財源の割合		100%	100%	29%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	3	市内の桜並木について、景観及び交通安全上の安全確保の視点から、市が主体として管理を実施していかなければならない。
②事業の必要性	4	観光資源や市民の憩いの場として、桜並木の景観を保全していく必要がある。加えて、老朽化した桜が交通安全上の支障となることから、安全・安心のまちづくりの観点からも継続が必要な事業である。
③受益の公平性	4	市民の健康づくりに資する遊歩道や犬山城周辺、五条川沿いの景観など、不特定多数の市民が利用し恩恵を受ける事業である。
④ニーズの把握	3	桜並木の保全・適正管理に対する市民要望は強く、土木要望などにより市民ニーズを把握し取り組みを進めている。
⑤目標の達成度	3	桜樹木診断に基づき、倒木や折損等緊急的な危険がある樹木を剪定・伐採を行っているが、今後、桜の生育・保全の視点を加えた管理をより積極的に行っていく。
⑥改善の取組状況	3	桜樹木診断と連動して剪定管理を進める取り組みを推進した。今後、桜樹木の植生に沿った管理手法を取り入れ保全管理していく。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	桜樹木診断について剪定管理業務により効率的に活かせるよう、受託者と連携・協議を進め、より効率的な剪定管理につなげられるよう努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	桜樹木診断と剪定管理業務をより効率的かつ適切に実施できるよう、委託内容の精査、受託者との綿密に協議・連携を行い業務実施していく。
今後見直しを検討する事項	桜樹木診断結果を基に実施する桜並木の管理委託業務をより、効率的かつ適切にできるように内容の精査を引き続き行っていくとともに、中長期的な桜並木の保全・管理の方向性を検討を進める。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
桜並木については、老朽化が進み、管理コストは増大していくことが想定されるため、より効率的な管理体制・手法を検討しコスト削減につなげていく。	桜樹木診断に基づき、効率的な管理に努めるとともに、中長期的な視点に立った桜保全のあり方を検討していく。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
7	4	8	公共下水道費	300

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	下水道事業会計繰出金
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水などの被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され、平成18年に一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・橋中排水区 公共下水道事業により、橋中雨水幹線整備工事を平成28年度から令和元年度で行う。 ・五ヶ村排水区 公共下水道事業により事業化し、事業年度を定め冠水対策を行う ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> 事業に伴う一般会計からの繰出金 (浸水対策下水道施設の一般財源分、市債償還元金、市債利子)
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減を行なうために、公共下水道（雨水）整備計画に基づき既設排水路を暗渠化し必要断面を確保するとともに、貯留施設を設置した。

II : 個別事業内訳

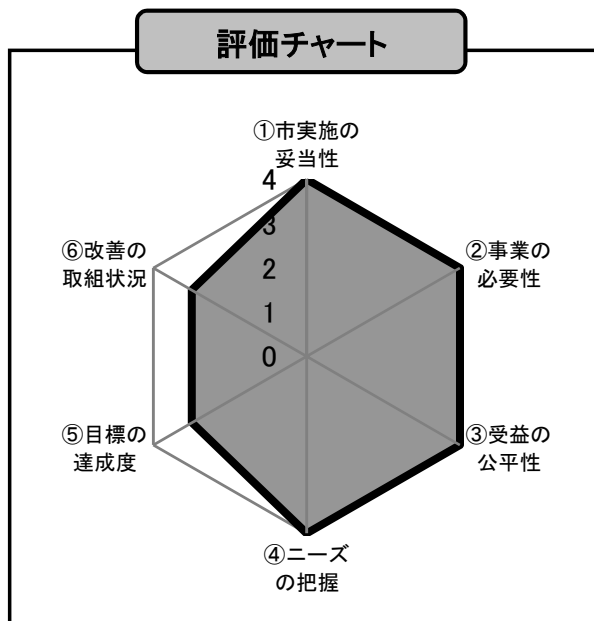
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
下水道事業会計繰出金	54,967	0	54,967	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	54,967	0	54,967	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		30,433	54,967	42,054
財源内訳	国庫支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	30,433	54,967	42,054
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	平成15年6月11日に成立した特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	3	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	地元調整、村田機械との調整を密に図り、迂回路の設定及び周知に努め工事を実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	五ヶ村排水路について、必要となる調整池用地の取得に向け関係地権者の同意を得ていく。
今後見直しを検討する事項	五ヶ村排水路について、事業計画を作成し国庫補助事業として適切に要望していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。	五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

予算			目名	決算書(P)
款	項	目		
10	2	2	河川災害復旧費	378

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	災害復旧
事業目的	災害発生時の対応
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ●事業の全体計画 <ul style="list-style-type: none"> ・突発的な自然災害において被害がでた河川施設の機能回復 ●主な事業内容 <ul style="list-style-type: none"> ○河川災害復旧 <ul style="list-style-type: none"> ・災害復旧工事
事業の成果・効果	大雨による河川災害復旧工事を実施した。

II : 個別事業内訳

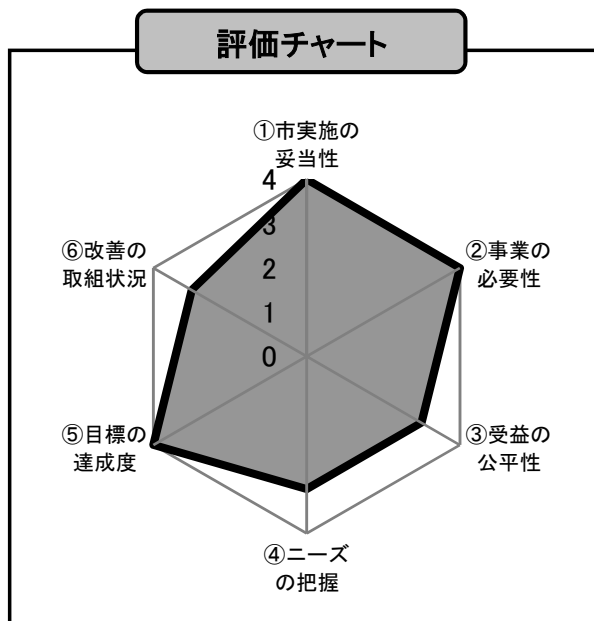
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
河川災害復旧	418	0	418	100%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	418	0	418	100%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		5,092	418	12,000
財源内訳	国県支出金	0	0	0
	地方債	0	0	0
	その他	0	0	0
	一般財源	5,092	418	12,000
一般財源の割合		100%	100%	100%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	河川管理者として、災害時に、早期に復旧し、二次災害を防ぐ必要がある。
②事業の必要性	4	生活環境の改善、安全性の確保に加え、災害時の早期復旧など、地域からの要望に応える事業として推進していくことが必要である。
③受益の公平性	3	地域の生活環境を確保するため、地域住民の要望等を加味した事業であるが、不特定多数の住民への影響が大きいため、公共性は高い。
④ニーズの把握	3	パトロールや通報、土木常設員を通じた地域の情報などに基づいて、事業を推進している。
⑤目標の達成度	4	災害発生時の対応を適切に実施した。
⑥改善の取組状況	3	災害箇所の適切な対応に努めた。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	災害発生時に早期対応が可能なように当初予算の確保に努めた。
令和2年度に見直しを実施している事項	引き続き、災害発生時の早期対応を目的として予算確保に努める。
今後見直しを検討する事項	愛知県と早期に調整を図り適切な対応を求めていく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
災害発生時のパトロールや通報、地元からの情報などにより災害箇所を把握するが、災害の状況によっては発見が遅れる場合もある。	災害発生時には地元と調整しながら災害箇所の確認及び対応を適切に進める。

令和元年度 決算説明書 / 事業評価シート

会計名	決算書(P)
下水道事業会計	

部局名	都市整備部
課名	整備課

I : 事業概要

施策事業名	浸水対策下水道施設整備
事業目的	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減及び平成16年に特定都市河川浸水被害対策法が施行され平成18年一級河川新川流域が特定都市河川流域に指定されたことに伴う対策事業を行う。
事業内容	<p>●事業の全体計画 特定都市河川浸水被害整備対策法に基づき策定された、新川流域水害対策計画の実施に当たり事業計画区域を取得し、公共下水道（雨水）事業として整備する。</p> <p>●主な事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○橋中雨水幹線整備事業 <ul style="list-style-type: none"> ・橋中雨水幹線整備工事（平成28年度～令和元年度） 雨水幹線築造（防災・安全交付金 補助率50%） ボックスカルバート工 L=402m ・雨水台帳データ更新及び下水道台帳システム改修業務委託 ○五ヶ村雨水幹線整備事業 令和元年度 五ヶ村雨水幹線予備設計業務委託 ○市債償還元金（橋中） ○市債利子（橋中）
事業の成果・効果	ゲリラ豪雨等による道路冠水など被害の軽減を行うために公共下水道事業（雨水）整備計画に基づき、橋中雨水幹線の整備を完了した。 次期地区として五ヶ村排水区の予備設計に着手した。

II : 個別事業内訳

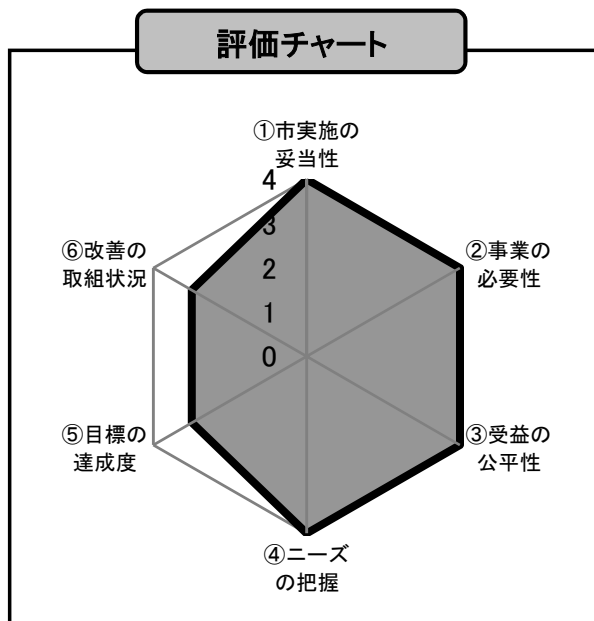
(単位：千円)

(総見直し・総点検進捗評価は4段階)

事業名	決算額	財源内訳		一般財源の割合	総見直し・総点検進捗評価		
		特定財源	一般財源		情報発信	分かりやすさ	サービス水準
浸水対策下水道施設整備	402,735	402,735	0	0%	3	3	3
市債償還元金	17,876	17,876	0	0%	3	3	3
市債利子	35	35	0	0%	3	3	3
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-
合計	420,646	420,646	0	0%	3	3	3

Ⅲ：年度別事業費の状況 (単位：千円)

事業費		H30決算	R1決算	R2予算
		273,974	420,646	30,747
財源内訳	国県支出金	113,310	159,940	0
	地方債	95,900	165,700	0
	その他	64,764	95,006	30,747
	一般財源	0	0	0
一般財源の割合		0%	0%	0%



Ⅳ：事業の評価 (PDCAサイクルのCheck)

評価の観点	評価	評価根拠
①市実施の妥当性	4	平成15年6月11日に成立した特定都市河川浸水被害対策法に基づく総合治水対策による事業である。
②事業の必要性	4	安全で安心して暮らせるまちづくりの観点から、浸水対策施設の整備は、市民福祉の向上に資する事業であり、事業実施が必須である。
③受益の公平性	4	豪雨時の道路冠水等の被害を軽減・防止する事業であり、広く市民生活の安心安全を確保する事業である。
④ニーズの把握	4	道路冠水軽減の土木要望により把握。
⑤目標の達成度	3	予定どおり、施工できた。
⑥改善の取組状況	3	予定どおり事業が進んでいる。

Ⅴ：業務の総見直し・総点検 (PDCAサイクルのC→A)

令和元年度に見直しを実施した事項	地元調整、村田機械との調整を密に図り、迂回路の設定及び周知に努め工事を実施した。
令和2年度に見直しを実施している事項	五ヶ村排水路について、必要となる調整池用地の取得に向け関係地権者の同意を得ていく。
今後見直しを検討する事項	五ヶ村排水路について、事業計画を作成し国庫補助事業として適切に要望していく。

Ⅵ：課題とその対応策及び今後の方向性 (令和元年度におけるPDCAの成果：次のサイクルに反映させていく事項)

課題	対応策・今後の方向性
五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。	五ヶ村排水区について、事業計画を作成し適切な事業内容及び事業期間を設定し、国庫補助を要望する必要がある。